

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 1 column: 基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを大切に、ゆとりのあるケアをしています。ご家族様との信頼関係を築き、ご家族様、ご利用者様が安心して生活が継続できるように支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者一人一人の人格と尊厳が守られる様に理念に基づき支援されている。
・職員は家族との信頼関係を築いて利用者が安心して生活出来る。
・コロナ禍の中で健康で安心した日々を送れるよう工夫している。
・職員は研修を重ね利用者に寄り添う支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Contains rows 56-63.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 住み慣れた地域で尊厳を守り穏やかに過ごして頂ける様、理念を忘れないようミーティングの時、暗唱している。 | 理念にある家庭的な雰囲気を大事に笑顔あるホームを目標に、毎朝ミーティング後に職員で唱和して実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の方々との会話や、挨拶を大切に行っている。地域での行事など参加出来る様、呼び掛けを行っている。 | コロナ禍ではあるが、たんぼぼ通信で地域の方との交流が途切れない様に民生委員さんへの声掛け等に努めている。秋祭りには再開できる事を楽しみにしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 老人会長や、自治会長の方、地域の方々から相談、質問を受け助言やアドバイスをを行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 委員会の開催、勉強会、行事等の報告、それについての意見交換を行っている。施設で活かせる事については実施を行いサービス向上に努めている。 | 2か月に1回の推進会議も文書で利用者の状況等を報告し、意見や要望を出してもらっている。家族からの「面会したい」の要望には、職員で話し合い方法等を検討して支援に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村担当者に顔を覚えて頂ける様、分からない事は相談、質問を行っている。アドバイスを受けた際にはサービス向上に生かせるように努めている。 | 市の担当者とは日頃から連携が取れており、事業所の実情やサービスの取り組みを伝えながら助言を頂き、日々の支援に繋げている。防災無線の設置の提案があり、実施の方向である。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を3か月に1回は開催している、勉強会でも年1、2回は行い職員に身体拘束の理解を深めている。 | 身体拘束をしないケアの勉強会を定期的開催し、出席出来ない職員には資料を配布して全員で共有を徹底し、身体拘束をしないケアを実施している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者、職員も勉強会等で理解し不適切ケアが虐待に繋がる事を周知している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員と勉強会で理解を深める様にしている。何かあれば社会福祉協議会に相談するようになっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結を結ぶ際は十分に説明を行い、納得して頂いた上で次のステップに進む様に行っている。不明な点があれば、質問を受け理解を求める。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族から得られた意見や苦情を施設向上の為と受け止め、勉強会で話し合い反映している。 | 面会時や電話、手紙で近況報告し、運営に関する要望、意見を聞き、職員で検討し運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見は都度、傾聴し生かせるようにしている。代表者の意見も聞き働きやすい職場作りに努めている。 | 運営に関する意見や提案はその都度聞いてもらえ、反映させている。勤務形態についても意見を出すことにより改善されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格取得に向けて本人の労働環境作りをしている。資格によっては研修費や交通費の支給も行っている、職員の健康診断も年2回実施を行い、心身の健康を保てるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の力量に応じて研修を受講しているが新型コロナの関係では行えない。月1回の勉強会をレポート方式で行い職員の考えを聴く機会にしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の施設の見学をと思っているも実現出来ないでいる、機会を作り実施したい、職員同士協力を計り意見交換を行い質の向上になればと思う。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 相談から入居に至るまで十分に話しをお聴きし、本人様や、ご家族様の気持ちに寄り添える様に努めている。話し合いの中で良い関係作りが築ける様に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ホームでの生活に慣れるのがとても不安に思っている、ご家族様の話しを傾聴し、信頼関係を作り何でも思いを伝えて頂けるよう関係を作っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時、本人や家族の状況、思いを把握し先を見据えた支援ができるよう対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々本人の思いは違う事もあり、側に寄り添いお話しを傾聴し安心して生活を行って頂けるような関係作りを心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人と家族の思いの違う事もありますが、お互いの思いを尊重しつつ、ご本人様とご家族様が絆をしっかりと保てるよう関係づくりに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人や、友人が訪問してくれた時には、継続的に来て頂ける様に促している。本人様が馴染みの場所など出かけるよう心掛けている。 | コロナ禍の中で安全を第一に考え、思う様に外出出来ず知人や友人が訪問して来ることもできない。また家族との面会もままならず2階からの窓越しでの面会が精一杯という。関係持続のための対応を職員で模索中である。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 席の位置などを考え、利用者様が孤立しないように努めている。レクレーションなどでご利用者様同士が関わりを持ち支え合えるような関係作りができる様、働きかけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了してもご本人やご家族様の相談事にはお話しをお聴きしている、支援が必要であれば支援して頂く。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の様子や会話、介護記録などから思いや意向を把握し職員とも話し合いケアに反映出来る様に努めている。 | 職員は日頃から利用者の言動や表情から思いや意向の把握に努めている。職員は話し合いをしながら本人の気持ちに寄り添い支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の生活歴や環境、日々の暮らし方サービス利用の経過を知り馴染みの暮らしができる様な関係作りを目指している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の暮らしの中で一人ひとりの身体状態や本人の状況を把握しながら出来る事を行って頂くように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族様からの要望もお聞きしながらご本人様の希望に沿えるように日々の記録の中から現状に即した介護計画を作成している。 | 家族からの意向や要望を聞きながら本人の希望に添える様、三ヶ月に1回のモニタリングで計画を作成し、現状に変化があればその都度見直しが行われている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一人ひとりの様子を介護記録に記入し、気づきがあれば具体的に書く様に介護計画の見直しをしながらケアに生かせるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに応じて多様な支援の方法を講じ臨機応変に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域運営推進会議によって、より良い関係が強化されました。支援に関する情報交換、協力関係が築けそれを広げていきたい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月二回訪問診療受診、本人、ご家族が希望すれば今までのかかりつけ医を基本としている。専門医への受診については情報を共有し家族に説明、同意の上で受診、報告を行っている。 | 本人、家族の希望を聞き、受診支援をしている。月2回の住診や希望する医療機関の受診など24時間対応も出来、適切な医療を受けることができる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職はご利用者の状況変化、異常に気付いた時は看護師に報告指示をもらう。看護師は訪問、受診をするか適切に指示を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は本人も支援方法に関する情報を医療機関に提出している。入院が長期にならないように相談し決めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合は終末期のあり方については家族にホームの力量対応、医療機関についても説明している。対応についてはご利用者様の状況に合わせて行っている。 | 入居時に重度化した場合や終末期の対応について状況をみながら支援に取り組んでいる。基本として看取りはしていない。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に勉強会で学び緊急マニュアルも作成している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 月1回避難訓練(火災、水害、夜間想定)を行っている。全職員も周知出来てると思う。地域の方々にも協力を呼び掛けている。 | 年2回消防署、防災会社協力のもと、避難訓練を行っている。夜間の想定や火災、水害も行っている。地区の裏に広場があり、全職員と地域との協力体制を築いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 1人ひとりの人格を尊重し声掛け対応を行っている。接遇マナーについては定期的に会議している。 | 一人一人の人格を尊重して言葉かけに注意し、親しみを持ちながらも誇りやプライバシーを損ねない様に支援している。気付いた時はその都度職員間で注意し合っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 意思表示が困難な方には表情やジェスチャー等で確認する。一人ひとりの行動を観察する事で希望、関心を見極め自分で決める場面を作っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの思いにそえるように何をしたいのかお聴きし対応出来る様に心掛けている。他のご利用者方ともコミュニケーションが取りやすいよう支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | いつも同じ洋服を着られるのではなく、その人らしい身だしなみ出来るよう行っている。浴衣姿でお化粧するととても良い笑顔される。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりにの好みに合う食事は難しいが色彩良く食欲をそそるように調理している。一緒に盛り付けなどを行う。食器拭きなどは皆様一緒に行って下さる。 | 三食とも事業所内で手作りしている。頂いた野菜等、季節に応じた食事を提供出来ている。職員も同じテーブルで家庭的雰囲気や和やかに過ごしている。クリスマスや年越しそば等の行事食も提供出来ている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事、水分量のチェックを行い、水分が不足している方にはご家族様に水分摂取ゼリーを持って来て頂き水分補給を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、声掛けを行い口腔ケアをご自分で出来る方には側にて声掛け見守りを行っている。出来ない方は介助を行う。夕食後は義歯洗浄、管理を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の記録表を見ながら排泄パターンを把握し誘導している。残存機能を活かし何が出来るか、出来ないのかの事の支援を行っている。 | 排泄パターン表を利用し誘導している。ほとんどの人が自立できている。プライバシーに配慮しながら声掛け、見守り、誘導など支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄パターンを把握し排便のない時、3、4日続いている時には冷たい牛乳、ヨーグルト、食物繊維がたくさん含まれている食材や調理等も工夫している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週二回入浴。入浴拒否が見られた場合は時間をずらしたり、別の介護職員が声掛けをしたりと工夫している。一人ひとりにそった支援をしている。 | 週2回入浴だが2つのユニットで入浴日が違うのでどちらの風呂でも対応出来る様になっている。ゆず湯など工夫し楽しむことができる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中、活動を促し良眠出来るように支援を行っている。寝れない時はホールで寄り添い見守りを行っている。眠らなくなった時に休んで頂く。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師と連携を取り、健康管理や不安なく過ごせるように努めている。薬は飲み忘れがないように確認、誤嚥に気をつけるように心掛けている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴や好みを把握しその人にそくした日々を楽しく過ごせるように支援を行っている。その人に合った役割をしてもらっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナが落ち着き始めた為、戸外へ出かけコスモスや菊観賞に出掛けている。園庭を散歩を行い気分転換に努めている。 | コロナ禍で外出が出来ずにいたが、コスモス観賞や園庭を散歩したりと徐々に気分転換が出来る様になっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の所持についてはご家族様と相談行い持たれていない、お金が無くなったと言われる事もあるが、ご本人様の思いに沿った声掛けをしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 新型コロナの関係で面会が出来ない状態が続いていましたが、落ち着かれれば許可がおりれば、面会を再開したい。居室ではなく、換気の良い所でマスクを使用し、安全対策の元に行っていきたい。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間には季節を感じられる様に季節の飾り物を利用者様と一緒に作成し飾っている。室内も快適に過ごせる室温を調整している。 | 共有空間には季節を感じられる様にクリスマスの飾りや利用者の作品や写真が飾られ、ソファも置かれ、適温に設定された温室で心地良い空間になっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ご本人様の意向をお聴きしソファや居室で過ごしたい時はゆっくりと過ごして頂いている。席順も会話が合う方向で座って頂いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族様と相談を行い、ご本人様が心地よく過ごせるよう、又ご家族様をいつでも思い出せるように写真などを置かれている方もいらっしゃる。居心地よく過ごせる工夫をしている。 | 本人が心地良く自宅に居る様な雰囲気でも過ごせる様に、写真や手芸品が飾られ落ち着いた居室になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホールは危険防止の為、ソファ、テーブル以外は置いていない、ご自分の居室が分かり易いように入り口にご本人の写真や、目印をつけて自由に出入りが出来る様に配慮している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 4471100406 | | |
| 法人名 | 医療法人 悠隆会 | | |
| 事業所名 | グループホーム「たんぽぽの家」B棟 | | |
| 所在地 | 大分県宇佐市大字樋田45-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年 11月 6日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年2月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 福祉サービス評価センターおおいた | | |
| 所在地 | 大分県大分市大津町2丁目1番41号 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年12月13日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを大切に、ゆとりのあるケアをしています。ご家族様との信頼関係を築き、ご家族様、ご利用者様が安心して生活が継続できるように支援をしています。玄関を開けると、明るい雰囲気の中、職員、利用者様の楽しそうな笑いが聞こえてきます。そんなアットホームな施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム「たんぽぽの家」A棟に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念に掲げているように、家庭的な雰囲気を中心に笑顔のあるホーム作りに努めている。毎日、朝の申し送りの時は暗唱して1日のスタートの始まりとしてケアに取り組んでいる。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 秋祭りには、案内状を配布している。散歩、お花見、お接待に出掛けたり、老人会の会長にも、地域の行事に参加出来るように呼び掛けを行っている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 老人会の会長から、相談される事がある。ホームでは、こんな支援を行っている事等、アドバイスをしたり入所施設の紹介も行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 研修、勉強会、行事等の報告をし、それについて意見交換したり、解決できない点については、2ヶ月後の会議で報告を行っている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域会議の時、サービスの取り組み状況や問題点等のアドバイスをもらって、サービスの向上に努めている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者の尊厳を守る為に、身体拘束は行っていない。〈方針〉は、身体拘束は原則として実施しない。玄関・居室の施錠はしていない為、安全面の確保に取り組み、職員の意識を高めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待・拘束については、勉強会で学び虐待事件・事故の情報があつた時は、皆で話題に上げて注意を払う様に周知徹底に努めている。 | | |

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」B棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 勉強会で学ぶように計画している。ご家族様からお話があれば、制度もありますよと、口頭で伝えている。外部研修があれば、受講するようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に十分に説明し、問題点を聞き理解・納得いくまで説明を行う。改定時は説明し、理解・納得した上で同意の署名をもらっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族には訪問時、常に近況報告をし、遠方の方には手紙で報告を行う。意見・要望も、出来るだけ反映できるように努めている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃からコミュニケーションを図るように心掛けている。勉強会で職員の意見・要望を聞いて、本部に上申する事項については、報告し反映してもらえるように努力している。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の資格取得に向けた支援を行ったり、年2回の健康診断を行い心身の健康を保ち、個々の条件、勤務状況を把握し向上心を持って働けるように努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個々の力量を把握して外部研修を受講し、勉強会で発表してもらって、全職員に周知し、いつでも閲覧できるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との交流はなかったが、同法人内では「接遇」についての勉強会をして、サービスや職員育成に役立つ為の交流や連携を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 不安を感じられていると思うので、一週間ほどは近くで見守り優しく話しかけを行い、安心して頂ける様に心掛ける。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居される前に来園して頂き、雰囲気など見て頂き、ホームとしてどこまで対応出来るかをお話して、安心して頂ける様、努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 色々細かい事まで、ご本人やご家族と出来る範囲でお話して、どのように過ごしたいか、生活の中で出来る事、出来ない事を見極め、信頼関係を築いている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者の皆様、人生の先輩であり、お話しをしていく中でも教えて頂く事も多く、お互い共同しながら穏やかに過ごしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日頃の生活の様子や状態などをこまめに報告する様にしてご遠方の家族の方には手紙や写真を送付している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昔からの知り合い、ご友人の方にはずっと交流が続けられるようにしている。定期的にボランティアの方が来園されたり、親しみのある関係が出来ている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お互いに声を掛けたり、行事の集まりの時には、一緒に行かれたりする姿も見られる、トラブルが生じた時には職員が間に入り、トラブルを最小限に押さえるので、お互いに不穏にならない様に努める。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても、これまでの生活歴、注意点などをこまめに情報提供している、ご家族の相談にも出来る限り対応出来る様に心掛けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員が表情や行動で気付く事で本人の希望や意向に沿う様に努めている。困難な場合は、ご家族様から情報を得る様にしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族様からの情報提供や面会からの情報、以前の施設や病院からの情報を踏まえてケアに反映している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1人ひとりの生活のリズムを把握し本人の心身状態を確認しながら出来る事を見極め、過ごしてもらう様に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々の関わりの中で利用者の想いを聞き、必要に応じてご家族の要望を聞きながら、職員間でカンファレンスを開き、意見交換しながら、現状に適した計画を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録の中に様子や気づき、状態変化も記録しているので、職員間で情報共有出来ている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族の状況によっては退院が困難な方もいる為、職員が同行して対応している。 | | |

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」B棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ対策の為、外出支援が出来なかった。施設内での外での買い物の疑似体験などの行事を行った。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所との連携を大切に、全て「ほうれんそう」を大切に実践しています。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護も他介護職員と情報を共有しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の時は休みの時以外は出向いているが、退院時、食事、普段の生活上に対しての相談が出来るので、なるべく行く様にはしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に、看取りの指針については家族・利用者には説明を行っている。重度化になった時、どこまで支えて行けるのか家族の意向も踏まえ、医師と連携し、安心して最期を迎えられるように取り組んでいる。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 「緊急時介護」対応については、外部研修を受講。救急車が来るまでの応急処置・準備については、勉強会や話し合いをしている。繰り返し行う事で、対応できるようにしていきたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回避難訓練・消火器の扱い方等の訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力の呼び掛けをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者、1人ひとりの性格等、充分理解する事が重要である。各職員が共有し、接する事を重視する。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者と常々、会話をして利用者の日常での生活の方向性を考える必要がある。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の行動と施設方針を充分考慮し、日々の生活を送って頂く。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝、起床時や、日中いつでも洗面台において身だしなみができる様にしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事のアレルギーなどを考慮し、1人ひとりの食事を食べやすい様に工夫している。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 各利用者の病気の種類や、その他を考慮し、摂取量、食事量を決定している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 各食事後、各自能力に応じた口腔ケアを実践して頂いている、出来ない人には介助する。 | | |

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」B棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を確認しトイレ誘導し、動きがある場合にトイレ誘導している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝の牛乳や水分量をチェックし便秘対策を行い、排便困難な方には看護師に報告し薬を飲まれている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週2回の入浴時間があり、入浴している。拒否する方もいるので、声掛けや、トイレに行ったタイミングで誘導し入浴している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中に活動して頂き、夜間は休まれるようにしている、日中に横になっても30分～1時間にし声掛けし、起きてもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の確認は必ず行い、個々の薬剤情報を確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | レクやお手伝いの声掛けを行い、1人1人出来る事を手伝って頂いています。終わった後は必ず感謝の言葉を伝えていきます。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 気候の良い時などは戸外に出て園の周りを1周する散歩を行いました。何班かに分かれて、藤野花やコスモスを見に出掛けています。 | | |

事業者名:グループホーム「たんぽぽの家」B棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭は無くなった時のトラブルを防ぐ為、所持して頂いていない、お金についてはご家族様と相談して決めている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状は毎年書いて頂く様にしている、電話はご家族様から掛かる事が多く、希望があればこちらから掛ける様にしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールには季節感を出す為、月毎に壁面等を作成している、居室にも作成品を飾っています。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファーやテーブルイス、居室にと、自由にしています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族と相談しても難しいものがあるが、職員が落ち着ける雰囲気作りに努めている。写真があると会話のきっかけにもなる。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 身体状態も重度化してきた為、戸外での外出が困難となった為、階移昇降機の設置をしてもらった。自由に戸外に出られるようになり、ストレス解消にもつながった。 | | |